

天文月報

第一號

獨逸曆の誤に就て

(理學士橋元昌夫)

第十七世紀の天文學

(理學士本田親二)

無線電信による時刻報知の成績に就きて(帆足通直)

太陽の

新活動始まらんとす

月面に於ける變化

一九〇七年十一月十四日に於ける

水星の經過

新しき天文單位

恒星の溫度

エンケ彗星次回の出現

ブルツクス彗星の光度と色

フインレー短週期彗星の再現期

恒星の視差

水素のスペクトルの新線群の發見

双子座第二新星のスペクトル

銀河の總合スペクトル

双子座第二新星の變光

變光星 1911

口線による分光太陽寫眞に於ける

吸收斑の分布

オリオン星雲附近の固有運動

太氣の不透明なりし昨年

東京に於ける月食觀測

星の掩蔽觀測

五月の天象

星の掩蔽

流星群

惑星だより

天圖

第二號

天文月報

(第六卷總目次)

第六卷目次

支那上代の曆法と北斗七星

(理學博士新城新藏)

銀河の構造に關する輓近の研究

(金子秀吉)

萬國協同放射電信式報時事業の開始

彗星軌道の分布に就いて

地球は爆破し得べきか

ワイルソン山百吋反射鏡

氣球による太陽輻射熱の測定

星の掩蔽の觀測より導ける木星第三

衛星の大きさ

最新發見の小惑星

一八八〇年第二彗星の決定的軌道要素

プレヤデス星雲のスペクトル

望遠鏡を動かす時像の明瞭となる事

パンツ人の星の名稱

金星と飛行機

第十回定會記事

大正元年度學會報告

天文學談話會記事

木星による星の掩蔽

彗星の發見

六月の天象

太陽

月

星の掩蔽

流星群

惑星だより

天圖

第三號

宇宙に於ける生物の分布に就

て(理學士本田親二)

我國にて發見されし第二小惑星

太陽の自轉速度

太陽色球中にラザウムの存否

天圖

太陽及び恒星の光球に關する疑問

惑星の大きさ

一八九九年第五彗星の決定的軌道要素

オリオン座α星の變光

變光星分類法の改良案

クフエウス彗星に就いて

大なる視差を有する恒星

全天圖の豫約出版

大なる平行固有運動を有する星の

メツカのカーバの地球上に於ける位置

七月の天象

太陽

月

變光星

バルセウス座流星群

星の掩蔽

流星群

惑星だより

天圖

第四號

流星の大きさ(理學博士新城新藏)

宇宙に於ける生物の分布に就て

(理學士本田親二)

四個の内惑星の軌道要素の緩慢變化

太陽紅耀は太陽面の東縁に影し

太陽の極直徑と赤道直徑

一九一三年α彗星の軌道要素

プレヤデスの掩蔽

ワイルソン山百吋反射鏡について

緯度變化

望遠鏡の像と運動

空間に於けるカルシウム雲

双子座α星につき

最近東京正午砲の成績

惑星出沒一覽表(田代)

八月の天象

太陽

變光星

バルセウス座流星群

星の掩蔽

流星群

惑星だより

天圖

第五號

朝鮮に於ける雨量觀測(一)

(理學博士和田雄治)

觀測科學の特質(一)

(英國ターナー教授)

雜報

一九一二年四月十七日の日食の觀測

九月十五日の月食

太陽輻射の變動

太陽紅耀の運動

火星の自轉軸の傾き

星の光度と溫度

裸狀星雲と球狀星團のスペクトル

恒星の有効溫度につき

九月の天象

太陽

月

變光星

星の掩蔽

流星群

惑星だより

天圖

第六號

太陽の距離に關する新研究

(理學博士平山信)

朝鮮に於ける雨量觀測(二)

(理學博士和田雄治)

觀測科學の特質(二)

(英國ターナー教授)

雜報

變光星ミラの極小

(一)

銀河と特殊なるスペクトルを有する星の分布	六九
最極星の観測	六九
海王星の帯	六九
セレン光度計の一應用	六九
最高温度の星とスペクトル	六九
惑星の生因	七〇
新彗星の發見	七〇
十月の天象	七〇
太陽	七〇
變光星	七一
星の掩蔽	七一
流星群	七一
惑星だより	七二
天圖	七二

第七號

高層氣象觀測(上)	七三
(理學士大石和三郎)	七三
モスコイ及びピブルコフ兩天文臺	七三
見物記 理學博士平山信	七六
雜報	七六
ウエストフアル週期彗星の出現	七九
昨年中の緯度變化	八〇
一九一三年の彗星	八〇
一九一三年の彗星	八一
九月十五日の月食	八一
小惑星を検出する一便法	八一
木星による星の掩蔽の觀測	八一
木星第三衛星の珍現象	八二
ペルセウス座の二重星圖N.G.C.869	八二
及びその測定	八二
分光儀連星の分布	八二
十一月の天象	八二
太陽	八三
變光星	八三
星の掩蔽	八三
流星群	八三

第八號

惑星だより	八四
天圖	八四
宇宙は有限なりや	八五
(理學士金子秀吉)	八五
高層氣象觀測(下)	八八
(理學士大石和三郎)	八八
雜報	八八
一九一三年の彗星	九三
ウエストフアル彗星(d彗星)	九三
シヤコビニ彗星の再來	九四
木星の掩蔽	九四
双子座第二新星のスペクトル	九四
菊池博士獎學資金募集	九四
十二月の天象	九四
太陽	九四
變光星	九四
星の掩蔽	九四
流星群	九四
惑星だより	九四
天圖	九四

第九號

三體問題について	九七
(理學士松隈健彦)	九七
觀測科學の特質(三)	一〇〇
(ターナー教授)	一〇〇
雜報	一〇〇
太陽黑點に於ける輻射狀運動	一〇〇
噴火と太陽輻射	一〇〇
木星による星の掩蔽の觀測	一〇〇
ハリー彗星の核の質量	一〇〇
恒星の視差	一〇〇
鯨座ミウラの變光出線	一〇〇
特殊のスペクトルを有する星	一〇〇
我が國發見の第二小惑星命名	一〇〇
サ・ロバート・ホルの計	一〇〇
第十一回定會記事	一〇〇
大正三年各種曆の對照表	一〇六
一月の天象	一〇七
太陽	一〇七

第十號

見える連星と見えぬ連星(上)	一一三
(理學博士平山信)	一一三
ニウトン(一)(理學士本田親二)	一一三
雜報	一一三
濃氣差の規則變化	一一六
驚くべき流星現象	一一六
明るき二重星の新測定	一一六
一ウアルフライエー星のスペクトル	一一六
カナダの六十時反式望遠鏡	一一六
新星の觀測と視線速度	一一六
九一五個の星の視線速度	一一六
隕石塵と地質年代	一一六
變光星と星の極大時刻の差	一一六
北極光の寫眞	一一六
一九一二年太陽輻射の減少	一一六
二月の天象	一一六
太陽	一一六
變光星	一一六
星の掩蔽	一一六
流星群	一一六
惑星だより	一一六
天圖	一一六

第十壹號

見える連星と見えぬ連星(下)	一二一
(理學博士平山信)	一二一
ニウトン(二)(理學士本田親二)	一二一
雜報	一二一
一九一二年に於ける太陽黑點面積	一二九
ニウツヨミ彗星の奇觀	一二九
アンドロメダ星雲の視線速度の一決定	一二九
大なる固有運動を有する一恒星	一二九
チャナンは變光星なり	一二九
大正三年中惑星出入一覽	一三〇
三月の天象	一三一
太陽	一三一

第十一號

見える連星と見えぬ連星(下)	一三三
(理學博士平山信)	一三三
ニウトン(三)(理學士本田親二)	一三三
觀測科學の特質(四)	一三三
(ターナー教授)	一三三
雜報	一三三
太陽活動度と颱風	一三三
太陽紅耀の週期性	一三三
月面に於ける火口の變化	一三三
小惑星の變光	一三三
地球のアルベド	一三三
一九一三年の彗星	一三三
緯度變化と光の屈折	一三三
スペクトルと分類	一三三
弱星の視線速度を決定する方法	一三三
カナダの大望遠鏡	一三三
ワシントン・アプトン教授の計	一三三
最近正午砲の成績	一三三
四月の天象	一三三
太陽	一三三
變光星	一三三
星の掩蔽	一三三
流星群	一三三
惑星だより	一三三
天圖	一三三

挿入寫眞圖

測雨器	一五〇
風雲記	一五一
水標	一五一
ウイコルヘルム・スツル・ベ	一五一
ブルコフ天文臺	一五一
獨國リデンベルグ高層	一五一
氣象觀測所の全景	一五一
北極光の寫眞(二種)	一五一
ニウトン	一五一
土星の寫眞	一五一
月面の火口	一五一
カナダの大望遠鏡	一五一